

4. 市のうつりかわり

(1) 富津市のようすと人々のくらしのうつりかわり

富津市のようすが変わるとともに、道具や生活はどのように変わってきたのでしょうか。

やってみよう

○電話を中心に調べて、昔の生活と今の生活をくらべてみましょう。

○富津市の交通、しせつ、土地の使われ方、人口がどのようにかわってきたか調べて、生活の変化をまとめましょう。

調べ方

○家の人や近所の人に、話をきく。

○富津市についてのしりょうを先生と読んで、わからないことをきく。

○コンピューターで調べる。

※電話のほかにあと1つえらんで、上の調べ方でまとめよう。

電話のうつりかわり



①ダイヤル式電話



②プッシュホン



③携帯電話

④スマートフォン

【昭和40年ごろ・・・おじいさんやおばあさんが子どものころ】

①道具

- ・ラジオや新聞からテレビが情報の中心になりました。
- ・たらいやせんたく板を使っての手あらいから、電気洗たく機に変わってきました。
- ・お店や役所だけでなく、家庭にもダイヤル式の電話機が広まりました。

②生活

- ・仕事は農業や漁業中心でしたが、機械が多く使われるようになり、作物のしゅるいが増えたり、作り方が変わったりしてきました。
- ・機械のおかげで時間によゆうができて、会社や工場ではたらく人も増えてきました。

【平成元年ごろ・・・お父さんやお母さんが子どものころ】

①道具

- ・会社や家では、ワープロやFAX中心から、パソコンや携帯電話を使ったインターネットが使われるようになりました。
- ・テレビでもえいせい放送やBS デジタル放送が始まって、情報リゆうが増えました。

②生活

- ・個人商店を中心に、週5日いじょう買い物をする生活から、車を使ってスーパーマーケットでまとめ買いするようになりました。また、学校だけでなく、週休2日制にする会社も増えて休みの使い方も変わってきました。

交通や公共しせつのうつりかわり

①1965年(昭和40年)ごろ おじいさんやおばあさんが子どものころ

富津町役場

町境

大佐和町役場

天羽町役場

房総西線が「内房線」へ

1966年(昭和41年)
急行列車が、青堀駅へ

1969年(昭和44年)
ディーゼル車から電車へ

1972年(昭和47年)
東京駅直通

○特急「さざなみ」

○快速

↑上総湊駅と特急さざなみ
(菱田忠義さん撮影)

↑昭和44年 房総西線(内房線)
電化完成を祝う大貫小学校の
鼓笛隊パレード
(写真資料提供 藤平 孝さん)

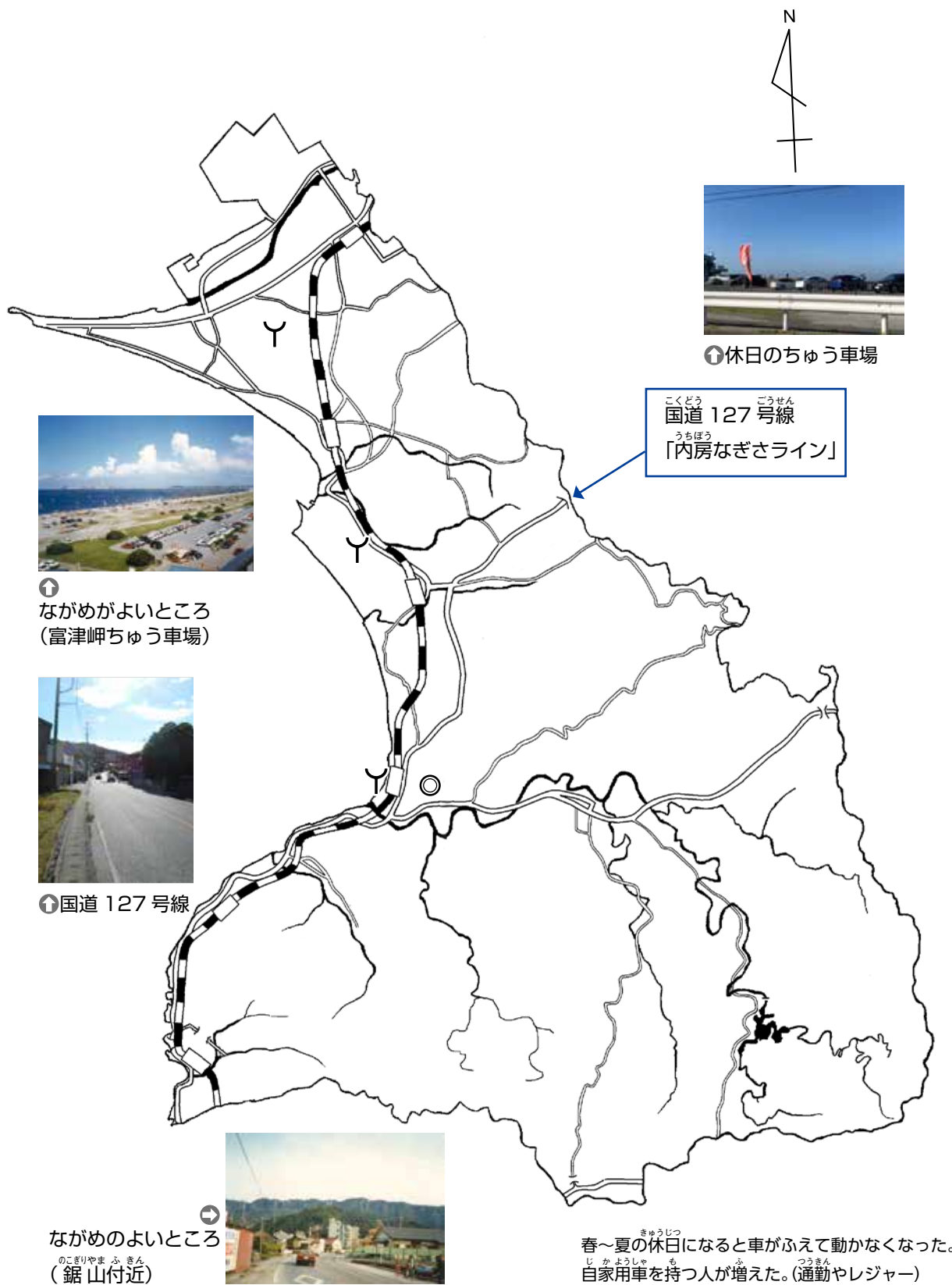
通勤、通学が便利になり、外に仕事に出る人が増えました。

公共施設	
市役所	消防署
<ul style="list-style-type: none"> ○1971年(昭和46年) 4月に富津町、大佐和町、天羽町が合peiし富津町になりました。 ○同年9月 富津市となりました。 市役所は天羽町役場だったところ<small>お</small>に置かれました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1972年(昭和47年) 大佐和地区に消防署の本署が置かれました。 ○1978年(昭和53年) 天羽地区に、消防署の出張所が置かれました。 ○1982年(昭和57年) 富津地区に、消防署の出張所が置かれました。

交通の発達	
鉄道	道路
<ul style="list-style-type: none"> ○富津市内も電化されて「房総西線」から「内房線」にかわりました。 ○特急「さざなみ」や快速がとまって東京まで直せつ行けるようになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国道や県道ができました。 主に品物を運ぶ車が通っていました。

土地の様子
海岸付近
<ul style="list-style-type: none"> ○1950年代(昭和20年代後半) 富津市や君津市の海岸付近をうめ立てして、多くの工場を建てる計画ができました。 ○1960年代(昭和30年~昭和40年代) 富津市や君津市の海岸に大きなうめ立て工事が行われました。

②平成のはじめごろ 1989年(平成元年) お父さんやお母さんが子どものころ

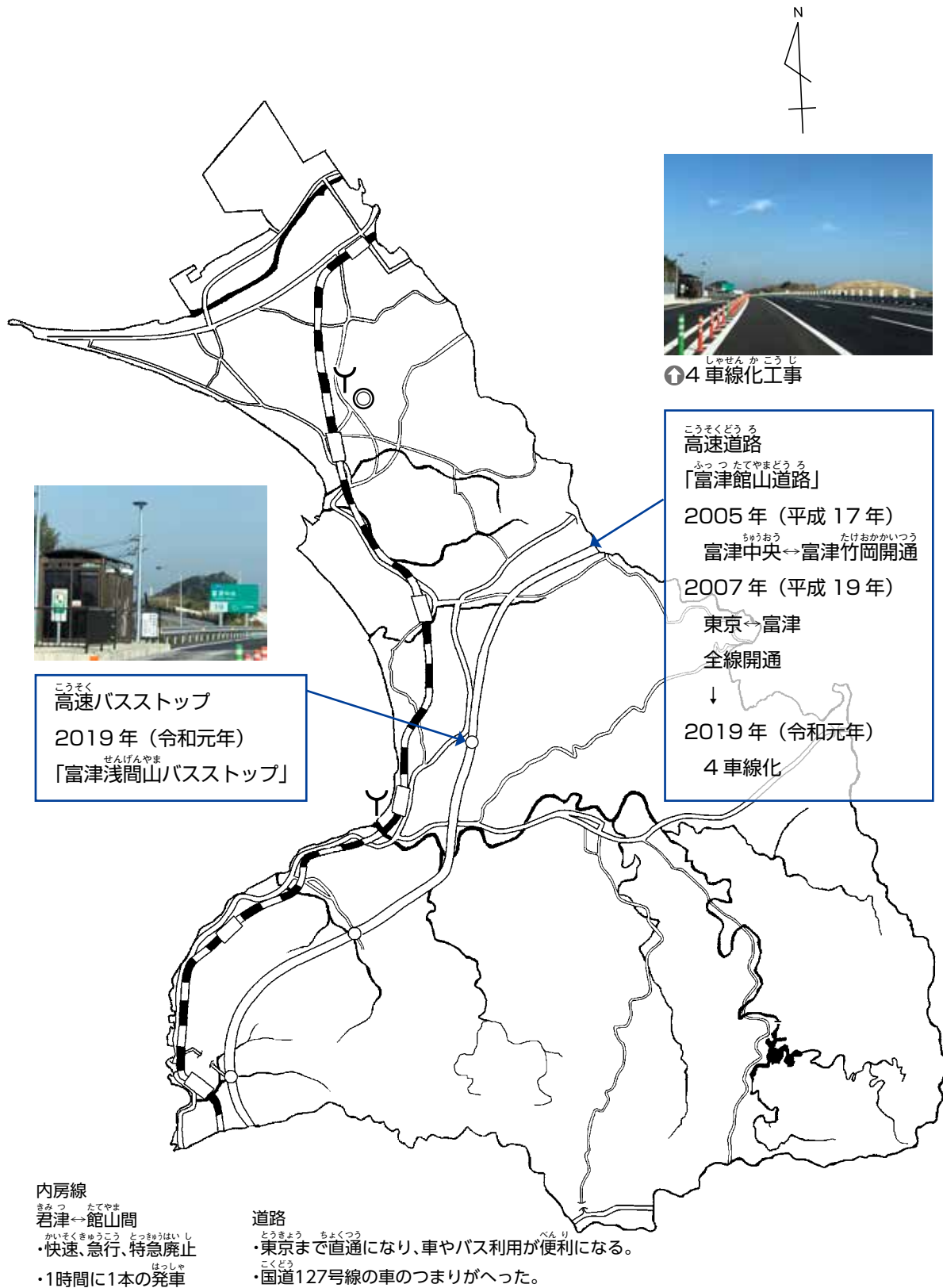


公共施設	
市役所	消防署
○1992年(平成4年) 11月、市民のおさめたぜい金をつかって飯野に新しい市役所が建てられました。	○消防署は、本署が大貫、分署は天羽地区にありました。

交通の発達	
鉄道	道路
○内房線快速は君津駅までになり、富津市の駅は各駅停車になりました。	○県道「木更津富津線」が4車線になりました。 ↓ ・自家用車を通勤やレジャーに使う人が増えました。 ・海辺の工場に人を運ぶバスが増えました。

土地の様子
海岸付近
○海岸から近い内がわの土地には、じゅうたく地がせいびされ、新しいまちができました。 ○うめ立てされた新しい地区「新富」が発てんし、新しい工場がたくさんできました。

③令和になって 2019年(令和元年)



公共施設	
市役所	消防署
○2021年(令和3年) 富津市ができて50年たちました。	○2013年(平成25年) 市役所のすぐそばに富津市消防防災センターが建てられ、市の安全を守る中心となっています。

交通の発達	
鉄道	道路
○特急は君津までで、土曜日と休日以外は富津市の駅は各駅停車になりました。	○2007年(平成19年) 館山自動車道が館山市まですべてつながりました。 ○2019年(令和元年) 4車線になって、高速バス停ができました。

土地の様子
海岸付近
○うめ立てた土地に、新しい土地や工場がたくさんできています。

土地のようすのうつりかわり



① 1960年(昭和35年)ごろ ② 1980年(昭和55年)ごろ ③ 2020年(令和2年)

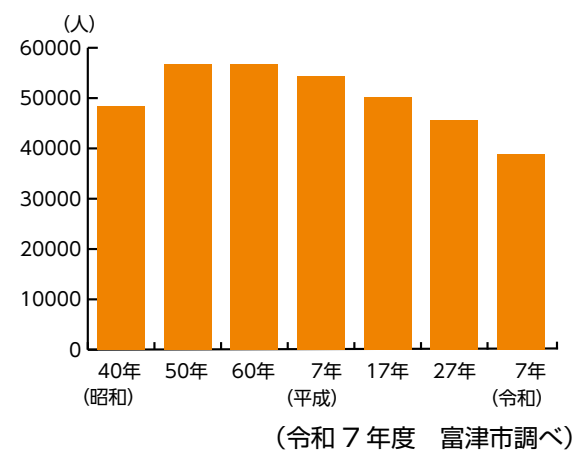
「1960年ごろは、富津市の北の海ぞいの土地が、まだうめ立てられていないね。」

「どのようにかわってきたのかな。」

「1980年ごろになると、うめ立てられている所もできて、海ぞいの土地のようすがかわってるね。」

「人工の島をつかって、工場などが建てられたんだね。」

人口のうつりかわり



市の人の数は、どのようにかわってきたのでしょうか。



(2) 富津市のはってんのために

富津市のこれからについて考えましょう。



富津市のホームページ

富津市 広報紙

富津市 観光ガイドブック



いろいろな方法で市の取り組みを知ることができます。

やってみよう

- 富津市が、これからどのようなまちになっていきそうか、どのような問題がありそうか調べましょう。
- 富津市が、これからどのようなまちをめざし、どのような取り組みが行われているのか、調べましょう。
- 未来の富津市がどのようなまちであってほしいか、そのためにどのような取り組みをすればよいのか、考えましょう。

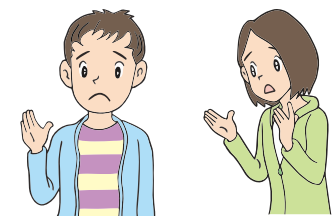
調べ方

- 市のホームページや広報紙など市役所のしりょうで調べてみましょう。
- 市役所の人に聞いてみましょう。

富津市が、これまでどのようにうつりかわってきたのかを調べる中で、「富津市のこれから」についても興味を持ちました。

そこで、ホームページや広報紙などを使って調べ、話し合いました。

市の人口は・・・ぼくたちが大人になるころにはどうなっているだろう。

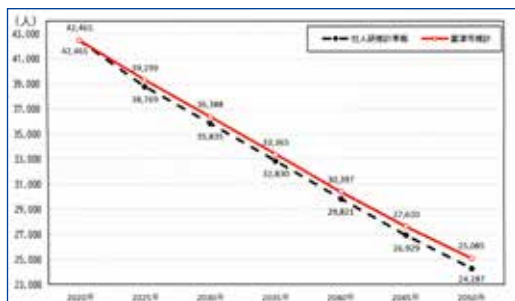


もしも、人口がこのまま・・・

<富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略>

富津市では、4～5年間をひとつのくぎりとして、まちづくりの計画を立てています。

令和6年度には、「第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をさだめました。



(富津市人口ビジョン 2050)

人口がへるスピードをおさえない！
目標は赤いライン

人口がへると何がこまるのかな？
市では、どんな取り組みをしているのかな？



「総合戦略」を調べると、市の最も重要な課題が、「人口減少のスピードをおさえること」であるとわかりました。

そのために、富津市ではどのようなことに取り組んでいるのか市役所の方にお話を聞きました。



市役所の方の話

富津市の人口が予測どおりへりつづけると、店や病院が今よりへり、バスや電車の本数もへる可能性があります。小学校や中学校がへるかもしれません。このように生活が不便になることで、さらに人口減少のスピードが上がってしまう危険があります。

富津市では若い人たちの人口減少のスピードをおさえるために、4つの目標を立てました。1つめは「子どもの笑顔があふれるまちへ」、2つめは「自分のくらし地域を好きになる」、3つめは「市の産業、仕事を創る」、4つめは「くらしやすく、移住しやすい環境づくり」です。

例えば、フツアールという観光ガイドブックやSNSを活用するなどし、富津市の良いところを、伝える活動をしています。

こうした活動を通して、富津市に住み続けたいと思う人、また、富津市に遊びに行ってみよう、生活したいと思う人を少しでも増やしたいと思っています。

また、そのためにも、未来を担う子どもたちの思いや考えを聴いて、生かしていきたいと考えています。

私たちにできること

富津市の情報を調べる中で、「総合戦略のキャッチフレーズ」として「人と人がつながる『あったかふつつ』—East Coast of Tokyo Bay」という言葉があることを知りました。

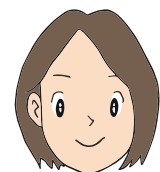
この言葉には、『ふつつ』に関わる人が、『ふつつ』の魅力に気づき、『ふつつ』の魅力積極的に伝え、そして、そのつながりによって、『ふつつ』にきたい、『ふつつ』で生活したい、そんな人々を増やしたいというおもしろいことがめられています。

私たちも「あったかふつつ」のために、「未来の富津市」のためにできることがあるのではないかと思います、考えてみました。そして、私たちが考えたことを、富津市役所の方に伝えたいと思いました。



富津市立図書館 (2023年4月に開館)

わたしたちにできることはないのかな？



移住定住ガイドブック「ふつつ暮らし」



子ども・若者が中心となる、市の計画
～富津市子ども計画～

